

島根県の弥生時代鉄器集成

池淵 俊一

はじめに

ここで紹介する資料は2009年度段階まで島根県内における弥生時代に属すると考えられる鉄器であるが、集落出土資料については古墳時代前期初頭（草田6期＝布留0併行期；赤澤1992）までを対象としている。また、一部所属時期が不明確で古墳時代前期に属する可能性のある資料も掲載した。

今回の集成では、全体で59遺跡から520点余りの鉄器が確認できた（別表・第1図）。誌面の都合上、掲載資料は基本的に不明鉄器は除き製品に限定しているが、鍛冶炉を伴う鍛冶関連遺物については不明鉄器・鉄片も含めて製品とともに遺構ごとに一括して掲載した。掲載方法は器種別とし、時代の判明する資料ができる限り時代順に掲載するよう努めた。

1. 島根県内における弥生時代鉄器普及の諸段階

(1) 弥生時代中期の様相

鑄造鉄器の流入

県内における鉄器文化は、他地域と同様に鑄造鉄斧片の流入から開始される（池淵2005A）。県内における鑄造鉄斧は、従来から知られている西川津遺跡例のほか、雲南市垣ノ内遺跡、出雲市中野清水遺跡例がある。特に中野清水遺跡例は、弥生時代中期の例としては全国でも数少ない完形の鑄造鉄斧として注目される。ただ、これらの鑄造鉄斧には、他地域のように破片を利器として再利用した形跡はまだ確認できていない。

県内における鑄造鉄斧片の出土例は時期的には中期後半に属する資料で、中期前半を中心に出土する北部九州の盛行期とはズレがある。その理由としては、中期後半の北部九州では既に鍛造鉄器の生産が活発化していることからみて、そこで不要となった鑄造鉄斧片が東方へ流出するようになった可能性が想定される。このように、当地における当該期の鑄造鉄斧片は寺澤薰が畿内の青銅製品において指摘したように、「明らかに北部九州のフィルターを通過した余り物」と評価するのが妥当だろう（寺沢2000）。

出土する二条突帶鑄造鉄斧は平面長方形のI式と平面梯形のIII式の二者があり（村上1988）、破片資料の場合も突帶の形状で分類が可能である（池淵2005A）。当該期における当地の鑄造鉄斧はほぼI式に限定されるが、中野清水遺跡出土の無帶鑄造鉄斧（2-4）はやや特異な資料であり、I式からIII式への過渡的な資料として位置づけられる。

鍛造鉄器

一方、鍛造鉄器は中期後葉から本格的に認められるようになり、現状では山間部に集中し、かつ板状鉄斧の大型品が目立つ点に特徴がある。これら山間部の遺跡では塩町式系土器が共伴する事例が多く、先の鑄造鉄斧片に代表される日本海沿岸を介した交易ルートとともに、山陽側からの鉄器流入ルートが併存していた可能性を想起させる。山間部に位置する奥出雲町国竹遺跡の大型板状鉄斧（2-6・7）は、分析の結果合わせ鍛えの朝鮮半島産と判定されている（大澤2000）。また、田和山遺跡の大型の袋状鉄斧（2-19）は明確な所属年代は不明であるが中期後半に属する可能性が高く、鳥取県長山馬籠遺跡例とともに当該期の大型袋状鉄斧として注目される。このように後述する弥生時代後期の資料と比較すると、

当該期の鉄斧は大型品が目立ち、その一部には搬入品が多く含まれていた可能性も考慮すべきであろう。

他の器種では鉈、鉄鎌が確認されている。鉈は森VI遺跡などで幅広の断面矩形の身部に刃部のみに裏すきを有する、当地域に特徴的なタイプが既に出現しており、小型鍛造鉄器に関しては既にこの段階で在地生産が開始されていた可能性が高い。

(2) 弥生時代後期～終末期の様相

弥生時代後期前半になると、伐採斧や打製石鎌、磨石など一部の器種を除くと石器は激減する。当地域の資料は必ずしも多くはないが、鉄鎌に無茎三角形式が目立つようになるなど、当地の鉄器生産が顕在化し、一定の地域色が認められるようになる。

当地域の資料はそう多くはないが、斧では袋状鉄斧が卓越するなど、いわゆる立体的な鉄器製作を志向する地域として把握することが可能であり、同時期の瀬戸内地域とは異なる。これは、前代までのサヌカイトの交易など瀬戸内に比重を置いた南北軸の地域間交流から日本海を介した東西交流へ移行した結果であると推測され、当該期に顕在化する山陰系土器分布圏域の成立と整合的なり方を示す。

また安来市越峠遺跡や上野II遺跡では弥生時代後期段階の鋳造鉄斧片が出土しており、後期になっても引き続き鋳造鉄斧片の流入が確認できる(2-3・5)。これらは再加工の痕跡は認められず、鍛冶素材として用いられた可能性も考慮される。

次の後期後半～終末期段階になると、当地の鉄器出土量は急増し、他地域とは確実に一線を画する特色ある鉄器文化圏を形成する。当該期に属する鉄器は中期段階の鉄器と比較して小型品でかつ技術的にも退行したかのような資料が多く、その大半は在地産製品と考えられる。また、当該期には塩津丘陵遺跡群や上野II遺跡のような、複数の鍛冶工房を備えるとともに多数の鉄器を保有する拠点的集落が出現する(池淵2005B・第7図)。

2. 出雲・石見における弥生時代鉄器の地域性

(1) 組成上の特徴

当地の鉄器組成上の特徴としては、鉄鎌が多数を占める点、鉈とともに鉄斧の比率が高い点、鍔・鋤先や鎌・摘鎌等の農具が一定量を占める点があげられる(池淵2000)。他地域との比較で言えば、鉈の比率が一定量を占める点で瀬戸内西部との共通性が窺える一方、袋状鉄斧の出土点数が多い点や、東部瀬戸内や畿内では出土例に乏しい鋤・鍔先、摘鎌等の、所謂「立体的な鉄器」が安定した組成を占めている点が当地域の鉄器組成上及び製作技術上の特徴といえる。

ただし、器種構成に関しては遺跡ごとの偏差が大きく、例えば浜田市道休畠遺跡では刺突具、棒状鉄器類が主体的であり、松江市平所遺跡資料では鉄針、鑿類がその大半を占めている。これらの点からみて、基本的には、鉄器の器種構成は個々の遺跡ごとにその立地条件や生業形態に大きく左右されていたものと推察される。

(2) 器種ごとの特徴

A) 鉄斧

県内からは鋳造鉄斧片や可能性のあるものも含め、現時点で33点の鉄斧が出土している。弥生時代中期段階の資料は鋳造鉄斧を除けば板状鉄斧が目立ち、袋状鉄斧は田和山遺跡例(2-19)の1例が確認できるにすぎない。

弥生時代後期段階では、中期と型式別の比率が逆転し、袋状鉄斧が卓越する。中期段階の斧と後期段階の斧とでは法量が明らかに異なっており、鉄斧のあり方に大きな断絶が認められる。このように後期段階では全長10cmを越える伐採斧は稀少であるが、これを補完するほどの大型伐採石斧の当該期出土

例は未だ乏しく、後期段階の伐採斧欠落の問題は依然課題として残されている。

袋状鉄斧の製作技術は中型品と小型品でやや異なる。小型品の多くは長方形鉄板の二隅を折り曲げただけの簡易なもので袋部の閉じ方が甘く、断面形も袋部と身部との厚さがあまり変わらないタイプ(2-20・21)で、これらは鍛冶炉から想定される当地域の鍛治技術から見て在地生産品と考えて差し支えない。北原本郷遺跡例(2-24)は袋状鉄斧の袋部を鍛打して潰し、板状鉄斧として再生させた資料と考えられ、当該期の鍛治技術の限界が窺える資料である。一方、中・大型品には、やや厚手の長方形鉄板の上半をたたき延ばして凸字形の鉄板をつくり、折り曲げて袋部を形成し、縦断面で段を形成する、前者よりは技術的には高いレベルにあるタイプの資料がある。

また、山陰では袋部端部を折り曲げて補強するタイプが一定量出土しており(3-3)、袋鑿でも同様なタイプが存在する(4-28)。これらは北部九州で盛行するタイプであることから搬入品と考えられていたが、近年類例が増加し、特に弥生時代終末期～古墳時代前期では中野清水遺跡例のように鍛冶関連遺物との関係を示唆する資料も存在することから、一部在地生産品が含まれている可能性も考慮される。

B) 鉈

当地域の鉈は中期後葉段階には既に出現している。中期末～後期中葉段階の資料は類例が少ないが、飯南町森V・VI遺跡から数点出土している。これらは身部が板状を呈するII A式ないしはIV B式(村上1998)に相当すると思われ、瀬戸内との親縁性を示唆する。

後期では刃部・身部ともに裏すきを備えるI式は、山口県との県境に近い前立山遺跡(後期中葉;3-8)で1例確認されているほかは、身部が矩形を呈するII a式またはIV式が主流を占める。当地の鉈の形態的特徴としては、瀬戸内で盛行する刃部が鎌状を呈するIV a式(3-14)は比較的少なく、身部と刃部の幅の差がないII a式・IV b式が主流を占め、また身部の幅が広い資料が目立つ点が指摘されている(村上1998)。松江市勝負奥遺跡例(3-16)は数少ないIV a式だが、装具が良好に残る稀少な事例である。

このように当地域の鉈は、中期末～後期前半に西部瀬戸内・北部九州の影響下に成立したのち、後期後葉～終末にはIV b類を主体とし幅広タイプのものが認められるなど、一定の地域色を保持するに至ったと評価される。

C) 鉄鎌

県内から出土する鉄鎌は、無茎三角形式、柳葉式、有茎腸挟三角形式などがあるが、無茎三角形式が主流を占める点が当地の鉄鎌の最大の特色である。柳葉式及び有茎腸挟三角形式も後期初頭には一旦出現しているが、その後断絶し、後期後葉～終末期に再び出現する。ただしこの段階でも無茎三角形(五角形)式が主流を占める点は動かない。なお、鳥取県では無茎三角形式とともに柳葉式が鉄鎌内で一定組成を占めており、同じ山陰内でも伯耆・因幡とはかなり様相を異にする。

無茎三角形式は中期後葉に属する飯南町森VI遺跡SI05例や前述の波来浜B区2号墓例では打製石鎌の平面形態に類似する長三角形で刃部が直線状をなす形態を呈している(6-1・2)。こうしたタイプの他に、門生黒谷III遺跡SI08(6-5)のような平面形が縦長のタイプも存在する。このタイプは、石鎌模倣のものとは考えにくく、北部九州の当該期鉄鎌の影響下で成立した可能性がある。また当地の無茎三角形式鉄鎌は鎌身中央部に一個円孔を穿つものが相当量認められ、こうした特徴は後期後半にも引き継がれる。

後期後半になると平面縦長タイプは姿を消すとともに、通常の無茎三角形式も打製石鎌の形態から離れ、ふくらが張るタイプが増加する。出雲市中野清水遺跡では無茎銅鎌または磨製石鎌を模倣したと思われる鉄鎌が出土している(6-8)。ふくらの張る形式変化の背景にはこうした無茎銅鎌や磨製石鎌からの影響も考慮すべきかもしれない。後期後葉～終末にはこうした型式学的变化の流れから、鑿切り技法を駆使し、より簡略化された無茎三角形式や平面五角形の無茎式鉄鎌(6-16)が盛行するようになる。

D) その他の特徴的な器種

その他、当地に特徴的な器種として、九州以外では稀な鉄・鋤先や摘鎌、さらに玉作用工具類、ヤス・銛等の漁撈具がある。鉄針やケンガネ、鑿等の玉作関連工具類は松江市平所遺跡（4-42～85）で多量に出土しているほか、松江市勝負遺跡や塩津丘陵遺跡群で若干ながら玉作関連遺物と共に伴している。

また、漁撈具のうちヤス・銛は他地域では極めて稀な器種である。これらはやや大型で逆刺のある先端部を備えるタイプ（5-23～25）と、小型で逆刺のない数本の刺突状利器を束ねて用いるタイプ（8-25～28）が存在する。後者は銛ではなく単独で用いる刺突具の可能性もあるが、雲南市平田遺跡では一ヶ所から数本がまとまって出土しており、ヤスの可能性も考慮しておきたい。逆刺のある銛・ヤスは、県内では松江市草田遺跡や沖丈遺跡、道休畠遺跡、鳥取では青谷上寺地遺跡で出土している。

弥生時代に関わらず鉄器を多量に出土する遺跡には鳥取県長瀬高浜遺跡のように釣針等の漁撈具が目立つ遺跡例が多く、鉄器交易における海人集団の密接な関与を示唆するものと言える。

(3) 搬入系鉄器

弥生時代後期の搬入鉄器としては、鋳造鉄斧では前述の越崎遺跡、上野II遺跡の可鍛錫製の鋳造鉄斧片がある（2-3・5）。このほか邑南町野田西遺跡の甕内（草田4～5期）から出土した鉄斧も、平面形横長で刃部が碇状に張り出す平面形態から鋳造鉄斧の可能性が高い。前述のように当地では後期段階においても完形品だけでなく鋳造鉄斧の破片が少量ながら認められる点も地域的特徴の一つであるといえる。一方、鍛造鉄器では、前述の袋部端部の折り返しのある袋状鉄斧・袋鑿の中に北部九州からの搬入品が含まれている可能性が高い。

また、墳墓副葬品では日本海沿岸地域においては長刀・長剣の副葬例が目立ち、特に環頭裁断大刀の副葬例がその特異な地域的特徴として指摘されてきた（池淵1998・2000、村上2001A、野島2004）。しかし出雲・石見での墳墓からの刀剣類副葬例は、安来市宮山IV号墓の裁断大刀と西谷3号墓の鉄剣だけにすぎない。西谷3号墓例についてはむしろ楯築墳丘墓など瀬戸内との関連を想定すべき資料であり、この点で長剣・長刀の副葬例の目立つ伯耆の様相とはかなり異なっている。

こうした山陰内における副葬鉄器上の地域差が何に起因するかは今後の課題ではあるが、山陰の弥生集落からは刀剣や鉄矛と想定される大型船載武器片が出土する事例が認められる点から、鍛冶素材として供与されたことにより、こうした地域差が生じた可能性が一案としては考えられる。また、当時の拠点的交易港と目される遺跡から出土する外来系土器の様相から、出雲平野では大陸との交易に北部九州集団の強い関与が示唆されるのに対し、青谷上寺地遺跡など因幡では北部九州を介しない朝鮮半島との直接的な交渉も示唆されることから、こうした交渉形態の相違が副葬鉄器の差に反映された可能性も考慮する必要がある（池淵2010）。

(4) 鉄素材の問題

当地では弥生時代中期段階の鍛冶関連遺物の分析例はないが、製品としては奥出雲町国竹遺跡の板状鉄斧の分析が行われ、先述のとおり炒鋼製素材の合わせ鍛え製品と判定されている（大澤2000）。このほか、鳥取県の事例であるが後期中葉の宮内1号墓の船載長剣や青谷上寺地遺跡出土の鉄鑿も分析の結果、炒鋼であることが判明している。

一方、後期後葉以降、上野II遺跡SI08例（7-20）や妻木晚田遺跡例など、当地の集落遺跡から大型の板状鉄器が出土するようになる。これらは分析の結果、朝鮮半島産の塊鍊鉄と判定されており、藤尾慎一郎はこれらをいわゆる「弁辰の鉄」に比定する（藤尾2004）。後期終末に属する平田遺跡出土鉄器や板屋III遺跡出土の板状鉄斧も分析の結果、塊鍊鉄製であることが判明しており、当地の弥生時代後期後葉以降には、こうした朝鮮半島産の低炭素系塊鍊鉄が主たる素材として広く流通していた可能性が高

い。このように、それまでの高炭素系の鉄脱炭鋼や炒鋼系の素材から後期後葉以降の軟質の塊鍊鉄への鉄素材の転換が、当該期における簡便な鍛冶炉の普及や鑿切り技法の盛行と深く関与していたものと推察される。

ただし、こうした板状鉄素材は現状では出土点数が限られており、それで当地の鉄器製作が総てまかなかわっていたとは考えにくい。その他の有力な鉄素材としては、多くの遺跡から出土している棒状鉄器や先述の舶載大型武器片がその候補としてあげられるが、未だ明言できる状況ではない。少なくとも弥生時代終末段階までは、板状鉄素材のような画一的な鉄素材が流通していた状況は現段階においては想定しにくい。

小 結

以上、県内の弥生時代鉄器の様相を概観してきたが、その進展は必ずしも進歩・発展とは言い難い側面が多々みられる。例えば袋状鉄斧は小型化・簡略化が著しい点や、後期後半以降は鉄器組成上鉗など小型の工具類や鉄鎌が大半を占め、農地開発に不可欠な大型の伐採斧や鍬・鋤先などは他地域に比べて多いとはいえ、極めて限定的な存在である点などが指摘できる。

このように、当地域における弥生時代後期の鉄器消費形態は、量的または素材の規模・形状といった諸条件に制約された中で、限られた素材をいかに最大限有効に集落成員に行き渡せるかという点に最も力点が置かれていたものと評価できる。それが当時の首長層と共同体成員との関係を強く規定していたことは想像に難くない。

当地の鉄器文化が鉄素材・技術の面からなお限定された範囲内での発展にとどまったのは、当地域側からの素材・鉄生産技術獲得の要求に対して、前の時代より緩和されたにせよ、供給側からの一定の規制・制約があったためと考えられる。こうした閉塞的状況を打破するための汎列島的な運動が、古墳時代開始への大きな要因となったものと推測される。

文 獻

論 文

赤澤秀則 1992 「IV. 小結」『南講武草田遺跡』鹿島町教育委員会

池淵俊一 1998 「山陰における弥生時代鉄器の様相」『門生黒谷 I 遺跡・門生黒谷 II 遺跡・門生黒谷 III 遺跡—一般国道 9 号（安来道路）建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 14-』島根県教育委員会

池淵俊一 2000 「島根県下における弥生時代鉄器の様相」『考古学ジャーナル』467

池淵俊一 2005 A 「安来市越峠遺跡出土鉄鋤斧をめぐる諸問題」『季刊文化財』110

池淵俊一 2005 B 「山陰における古墳時代前半期鉄器の様相」『考古論集—川越哲志先生退官記念論文集—』

池淵俊一 2009 「出雲・石見・隱岐の鉄器」『山陰における弥生時代の鉄器と玉』第 36 回山陰考古学研究会事務局

池淵俊一 2010 「山陰における朝鮮半島系土器の様相—弥生時代後期を中心にして—」『第 59 回埋蔵文化財研究集会 日本出土の朝鮮半島系土器の再検討—弥生時代を中心に—』埋蔵文化財研究会

大澤正己 2000 「島根県国竹遺跡出土板状鉄斧の金属学的調査」『島根考古学会誌』17 島根考古学会

田中義昭・石田為成 2000 「島根県横田町国竹遺跡出土の鉄斧について」『島根考古学会誌』17 島根考古学会

寺沢 薫 2000 『王権誕生』講談社

野島 永 1992 「破碎された鉄鋤斧」『たたら研究』32・33

野島 永 2004 「弥生時代後期から古墳時代初頭における鉄製武器をめぐって」『考古論集—河瀬正利先生退官記念論文集—』

藤尾慎一郎 2004 「弥生時代の鉄」『国立歴史民俗博物館研究報告』110

村上恭通1988「東アジアの二種の鋳造鉄斧をめぐって」『たら研究』29

村上恭通1998「鉄器普及の諸段階」下條信行編『日本における石器から鉄器への転換形態の研究』

村上恭通2001 A 「日本海沿岸地域における鉄の消費形態－弥生時代後期を中心として－」『古代文化』53-4

村上恭通2001 B 「古墳出現前夜の「地域性」－生産・流通とその地理的・歴史的環境－」『考古学研究』48-3

報告書

池淵俊一・丹羽野裕編1998『門生黒谷I遺跡・門生黒谷II遺跡・門生黒谷III遺跡』島根県教育委員会

丹羽野裕他編1998『塩津丘陵遺跡群』島根県教育委員会

増田浩太編2001『塩津丘陵遺跡群・小久白墳墓群』島根県教育委員会

丹羽野裕編1997『岩屋口北遺跡・臼コクリ遺跡(F区)』島根県教育委員会

深田浩他編1995『陽徳遺跡・平ラI遺跡』島根県教育委員会

松本岩雄編2003『宮山古墳群の研究』島根県古代文化センター

妹尾秀樹編2003『青垣神社横遺跡』伯太町教育委員会

内田律雄編2003『西川津遺跡発掘調査報告書IV(海崎地区2)』島根県教育委員会

前島己基・松本岩雄編1977『国道9号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書II』島根県教育委員会

広江耕史編1989『国道9号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書VII(石台遺跡)』島根県教育委員会

柳浦俊一他編1983『国道9号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書IV』島根県教育委員会

川原和人編2007『南外2号墳・勝負遺跡』島根県教育委員会

青木 博編1988『廻田遺跡・廻田古墳』松江市教育委員会

瀬古諒子編1994『角森遺跡発掘調査報告書』(財)松江市教育文化振興事業団

川上昭一編1994『折原上堤東遺跡』八雲村教育委員会

赤澤秀則編1992『南講武草田遺跡』鹿島町教育委員会

江川幸子編2009『大勝間山城跡発掘調査報告書』(財)松江市教育文化振興事業団

錦田剛志編2001『布志名大谷III遺跡』島根県教育委員会

原田敏照他編2000『勝負廻遺跡・白石大谷II遺跡・シトギ免遺跡・野津原II遺跡・山守免遺跡・石地蔵遺跡』島根県教育委員会

宮本正保編2002『屋敷古墳群・鋤崎古墳群・足頭古墳群・長廻古墳群・海部城跡・杓子観音I古墳群・杓子観音I遺跡』島根県教育委員会

瀬古諒子他編2005『田和山遺跡』松江市教育委員会

瀬古諒子編2005『勝負奥遺跡』松江市教育委員会

久保田一郎編2001『上野II遺跡』島根県教育委員会

角田徳幸編1998『板屋III遺跡』島根県教育委員会

原田敏照編2003『板屋III遺跡(2)』

山崎 修編1998『県道吉田頓原線緊急地方道路整備A(改良)工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(的場尻遺跡・社日山城跡)』頓原町教育委員会

山崎順子編2001『森V遺跡』頓原町教育委員会

内田律雄編1996『門遺跡』島根県教育委員会

増田浩太編2003『家の後遺跡・垣ノ内遺跡』島根県教育委員会

勝部智明編2006『原田遺跡(2)』島根県教育委員会

坂本諭司編2000『平田遺跡 第III調査区』木次町教育委員会

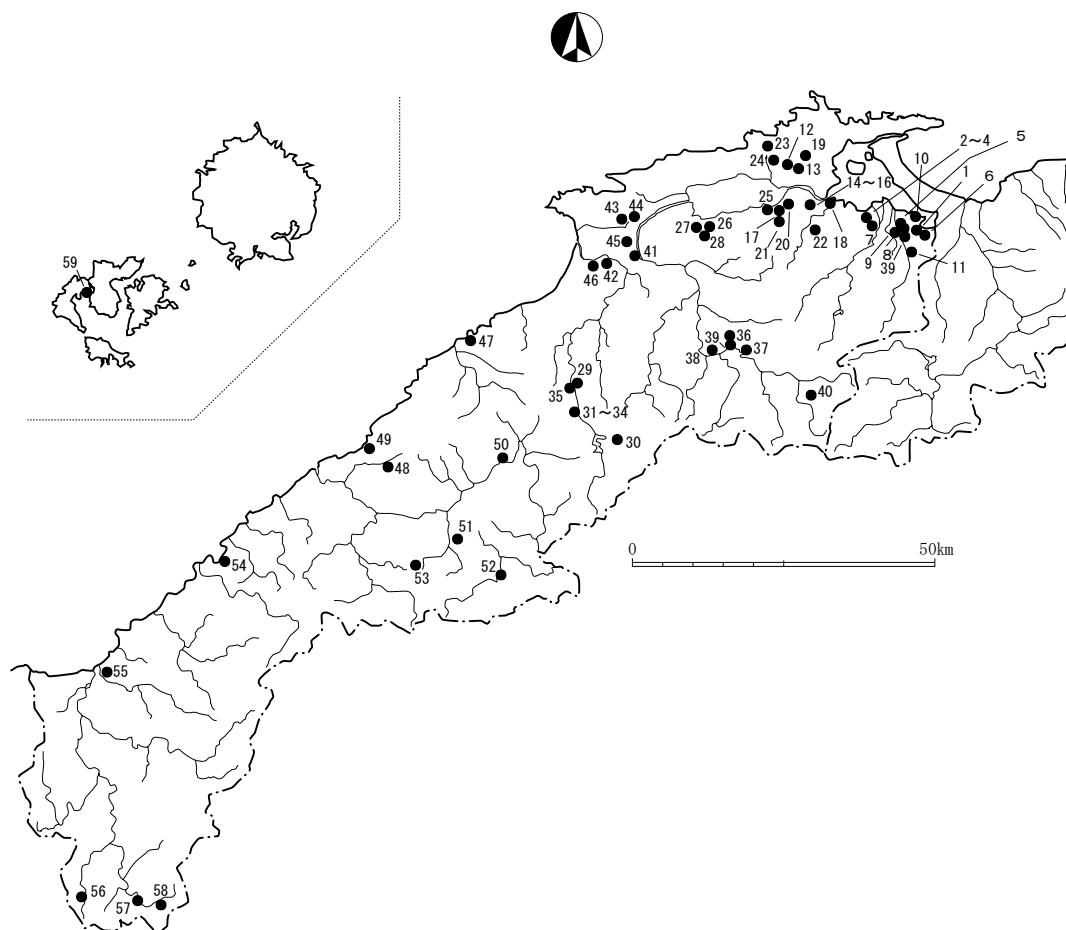
東山信治他編2005『北原本郷遺跡1』島根県教育委員会

渡辺貞幸1993「弥生墳丘墓における墓上の祭儀－西谷3号墓の調査から－」『島根考古学会誌』10

平石 充編1999『古志本郷遺跡I』島根県教育委員会

守岡利栄編2003『古志本郷遺跡VI』島根県教育委員会

池淵俊一編2007『山持遺跡II・III区(Vol.2)』島根県教育委員会
 松尾充晶他編2006『青木遺跡II』島根県教育委員会
 内田律雄編2004『大津町北遺跡・中野清水遺跡』島根県教育委員会
 角田徳幸編2006『中野清水遺跡(3)・白枝本郷遺跡』島根県教育委員会
 久保田一郎編2005『中野清水遺跡(2)』島根県教育委員会
 大塚初重1963「島根県出雲市知井宮遺跡の調査」『考古学集刊』第2巻第1号 東京考古学会
 西尾克己他編1985『島根県埋蔵文化財調査報告』11 島根県教育委員会
 昌子寛光編1997『柴III遺跡発掘調査概要報告書』松江市教育文化振興事業団
 山崎順子編2009『森II遺跡・森III遺跡・森IV遺跡・森VI遺跡』飯南町教育委員会
 梅木茂雄編2005『高津遺跡』江津市教育委員会
 門脇俊彦1973『波来浜遺跡発掘調査報告書—第1・2次緊急調査概報—』
 牧田公平編2001『沖丈遺跡』邑智町教育委員会
 原 拓矢他編2001『清源那遺跡』石見町教育委員会
 水津 浩編2000『沖場遺跡』六日市町教育委員会
 内田律雄編1981『中国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』島根県教育委員会
 柳浦俊一編2010『道休畑遺跡』島根県教育委員会
 宮本正保編2010『堂ノ上遺跡』島根県教育委員会
 宮田健一編2010『大陰遺跡』津和野町教育委員会
 柚原恒平編2000『タヤ遺跡』西ノ島町教育委員会



第1図 島根県弥生時代鉄器出土遺跡（番号は別表に対応）

別表 島根県における弥生時代鉄器出土一覧

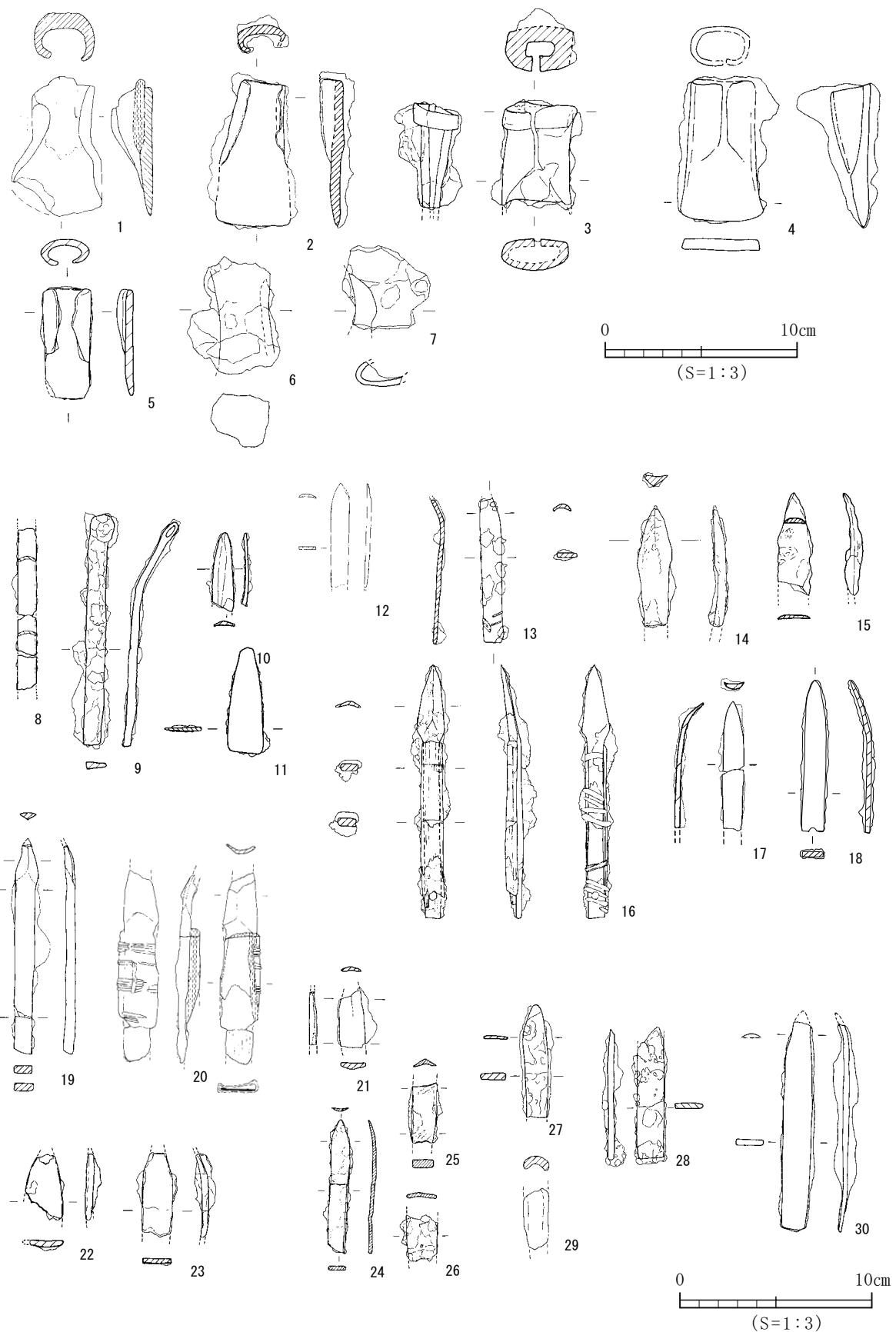
番号	遺跡名	所在地	遺構名	時期	鉄器器種						その他(製品)	その他(鉄片)	鉄器小計	備考	文献			
					斧	鉗	刀子	鑿	鍊	鍔先								
1	円生黒谷III遺跡	安来市	I区S102	草田1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	鉄斧か?	池淵・丹羽野1998		
1	円生黒谷III遺跡	安来市	I区S103	草田2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1		池淵・丹羽野1998	
1	円生黒谷III遺跡	安来市	I区S108	草田1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1		池淵・丹羽野1998	
1	円生黒谷III遺跡	安来市	I区S109	草田2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	3		池淵・丹羽野1998	
1	円生黒谷III遺跡	安来市	I区S112	草田2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1		池淵・丹羽野1998	
2	柳遺跡	安来市	S101	草田5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1		丹羽野他1998	
2	柳遺跡	安来市	加工段2	草田3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1		丹羽野他1998	
2	柳遺跡	安来市	加工段6	草田4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1		丹羽野他1998	
2	柳遺跡	安来市	S105	草田4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1		丹羽野他1998	
2	柳遺跡	安来市	加工段22	草田4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1		丹羽野他1998	
2	柳遺跡	安来市	加工段23	草田4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		丹羽野他1998	
2	柳遺跡	安来市	加工段25	草田4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1		丹羽野他1998	
2	柳遺跡	安来市	加工段34	草田5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1		丹羽野他1998	
2	柳遺跡	安来市	加工段38	草田5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1		丹羽野他1998	
2	柳遺跡	安来市	階段状遺構	草田5	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	針1	丹羽野他1998	
3	塙津山遺跡	安来市	加工段1	草田5	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2		丹羽野他1998	
3	塙津山遺跡	安来市	加工段5	草田5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1		増田2001	
4	竹ヶ崎遺跡	安来市	S101	草田5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		丹羽野他1998	
4	竹ヶ崎遺跡	安来市	加工段04~06	草田5	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3		丹羽野他1998	
4	竹ヶ崎遺跡	安来市	S102	草田3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1		丹羽野他1998	
4	竹ヶ崎遺跡	安来市	SK01	草田5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		丹羽野他1998	
4	竹ヶ崎遺跡	安来市	S103	草田5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2		丹羽野他1998	
4	竹ヶ崎遺跡	安来市	加工段7	草田5	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	錐1、鉄片1	丹羽野他1998	
4	竹ヶ崎遺跡	安来市	S104	草田5	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2		丹羽野他1998	
4	竹ヶ崎遺跡	安来市	S105	草田5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1		丹羽野他1998	
4	竹ヶ崎遺跡	安来市	S109	草田5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	板状素材か	丹羽野他1998	
4	竹ヶ崎遺跡	安来市	S112	草田5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1		丹羽野他1998	
4	竹ヶ崎遺跡	安来市	S114	草田5	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2		丹羽野他1998	
4	竹ヶ崎遺跡	安来市	S115	草田5	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1		丹羽野他1998	
4	竹ヶ崎遺跡	安来市	S117	草田5	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	板状鉄器	丹羽野他1998	
4	竹ヶ崎遺跡	安来市	加工段19	草田5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1		丹羽野他1998	
5	岩屋口北遺跡	安来市	S102	草田4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1		丹羽野1997
6	陽山遺跡	安来市	S104	草田4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		深田他1995	
7	宮山IV号墓	安来市	第1主体部	草田5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	直刀	松本他2003	
8	越前崎遺跡	安来市	B区包含層	草田1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		池淵2005	
9	叶谷遺跡	安来市	1号住居跡	草田3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1		西尾他1985	
10	小汐手遺跡	安来市	II区加工段3	草田3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1		未報告	
11	青垣神社横遺跡	安来市伯太町	不明	草田5?	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0		妹尾2003	
12	西川津遺跡	松江市西川津町	包含層	中期?	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	鑄造鉄斧	内田1988	
13	柴III遺跡	松江市西川津町	S103	草田3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	玉作工房、鉄器片あり	昌子1997	
14	平所遺跡	松江市矢田町	玉作工房跡	草田3	0	0	0	0	0	0	0	90	0	19	109		前島・松本1977	
14	平所遺跡	松江市矢田町	溝状遺構	草田3	0	0	0	0	0	0	0	5	0	13	18		前島・松本1977	
14	平所遺跡	松江市矢田町	1号住居跡	草田4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1		前島・松本1977
15	石台遺跡	松江市東津田町	IV区S102	中期末	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		広江他1989	
16	勝負遺跡	松江市東津田町	S103	草田3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	石斧あり	柳浦他1983	
16	勝負遺跡	松江市東津田町	S104・SD07	草田3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	外周溝から出土	柳浦他1983	
16	勝負遺跡	松江市東津田町	S104	草田2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1		川原2007
17	廻田遺跡	松江市木福富町	S101	草田2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		青木1988	
18	角森遺跡	松江市八幡町	包含層	草田1～3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1		瀬古1994	
19	西持田山遺跡	松江市西持田町	SD01	草田1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2	未報告		
20	田和山遺跡	松江市田和町	環濠間	前期末～中期後半	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		瀬古2005	
21	勝負奥遺跡	松江市白町	S101	草田2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1		瀬古2006	
22	折所上堤東遺跡	松江市八雲町	S107	草田4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1		川上1994	
23	南講武草田遺跡	松江市鹿島町	CD-4区土器溜まり	草田6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	組合せ式ヤヌ	赤澤1992	
24	大勝間山城跡	松江市鹿島町	S102	草田5期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	棒状鉄器1	江川2009	
25	布志名大谷III遺跡	松江市玉湯町	北区1号墓盛土下	草田3	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2		錦田2001	
26	山守免遺跡	松江市宍道町	I区S102	草田1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1		原田他2000	
27	扇形古墳群	松江市宍道町	I区S101	草田2	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	4		宮本他2002	
27	扇形古墳群	松江市宍道町	I区遺構外	草田2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1		宮本他2002	
28	上野II遺跡	松江市宍道町	S102	草田4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	鉄片2	久保田2001	
28	上野II遺跡	松江市宍道町	S106	草田4	0	4	0	0	0	0	1	0	0	5	10	鍛冶工房、端切れ多	久保田2001	
28	上野II遺跡	松江市宍道町	S107	草田4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	鍛冶工房、端切れ、素材	久保田2001	
28	上野II遺跡	松江市宍道町	S108	草田4	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	2	5	鍛冶工房、板状素材1	久保田2001
28	上野II遺跡	松江市宍道町	S109	草田5	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3		久保田2001	
28	上野II遺跡	松江市宍道町	S112	草田5	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	3		久保田2001	
28	上野II遺跡	松江市宍道町	S115	草田4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	鉄片1	久保田2001	
28	上野II遺跡	松江市宍道町	加工段1	草田4	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	3	直刀?、鉄滓	久保田2001	
28	上野II遺跡	松江市宍道町	S105	草田5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	剣1	久保田2001
28	上野II遺跡	松江市宍道町	遺構外	弥生後期・古墳中期	2	2	2	0	0	2	0	0	0	11	19	斧・鎌先未製品有り	久保田2001	
29	板屋III遺跡	飯南町	12号堅穴住跡	草田5	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2		角田1998	
29	板屋III遺跡	飯南町	西区S108	草田5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1		原田2003	
29	板屋III遺跡	飯南町	西区S101	草田5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1		原田2003	
29	板屋III遺跡	飯南町	西区S103	草田5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3		原田2003	
29	板屋III遺跡	飯南町	西区S106	草田5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	鍛冶具か?	原田2003	
29	板屋III遺跡	飯南町	西区S108	草田5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	鍛冶具か?	原田2003
29	板屋III遺跡	飯南町	西区S101	草田5	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	5	8無茎式2、素材? 5	原田2003	
30	的場尻遺跡	飯南町	S101	草田6	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	3		山崎1998	
31	森II遺跡	飯南町	S101	草田5	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3		山崎2009
32	森III遺跡	飯南町	S103	草田3	0													

番号	遺跡名	所在地	遺構名	時期	鉄器器種						その他 (製品)	その他 (鉄片)	鉄器小計	備考	文献			
					斧	鎌	刀子	鑿	鍊	鍔先	鐵鏃	玉作工具						
34	森VI遺跡	飯南町	S107	中期末	0	0	0	0	2	0	0	0	2	1	5 捜鏸2	山崎2009		
34	森VI遺跡	飯南町	S108	中期末	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2		山崎2009	
34	森VI遺跡	飯南町	S109	草田4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1		山崎2009	
34	森VI遺跡	飯南町	S111	草田4	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2 刺突具?釣針?	山崎2009		
35	門遺跡	飯南町	S124	草田4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1		内田1996	
35	門遺跡	飯南町	S133	草田1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2		内田1996	
35	門遺跡	飯南町	S134	草田1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1 棒状素材1	内田1996		
36	垣ノ内遺跡	雲南市木次町	S113	中期末	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 鋸造鉄斧片	増田2003		
36	垣ノ内遺跡	雲南市木次町	包含層	不明	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 板状鉄斧	増田2003		
37	原田遺跡	雲南市木次町	2区包含層(3層)	草田1~5	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3		勝部2006	
38	平田遺跡	雲南市木次町	3区堅穴住居跡	草田6	1	1	0	1	0	0	5	0	8	26 42 錛治工房、不明鉄器8、小鉄片26		坂本2000		
39	北原本郷遺跡	雲南市木次町	S105	草田5	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1		東山他2005	
39	北原本郷遺跡	雲南市木次町	S106	草田1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		東山他2005	
39	北原本郷遺跡	雲南市木次町	8区S105	草田2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		東山他2005	
40	園竹遺跡	奥出雲町	土器溜まり	中期末	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		田中・石田2000	
41	西谷3号墓	出雲市	第4主体部	草田3期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1			渡辺1993	
42	古志本郷遺跡	出雲市	S107	中期末	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1 棒状鉄器1	平石1999		
43	古志本郷遺跡	出雲市	K区S103	草田1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2		守岡2003	
44	山持遺跡	出雲市	III-1区SK01	草田1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2		池瀬2007	
44	青木遺跡	出雲市	12号墓	草田6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1		松尾他2006	
45	中野清水遺跡	出雲市	VII区4層	中期中葉～後葉	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		内田2004	
45	中野清水遺跡	出雲市	IV区3層	後期前葉	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1		内田2004	
45	中野清水遺跡	出雲市	7区14層上面5号佛	草田6~7	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1		角田2006	
45	中野清水遺跡	出雲市	4区14層	弥生中期～古墳前期	0	2	0	0	0	0	1	0	0	2	5		角田2006	
45	中野清水遺跡	出雲市	5・6区14層	弥生後期～古墳前期	1	1	0	0	0	0	1	0	0	2	5		久保田2005	
46	知井宮多聞院貝塚	出雲市	貝塚	不明	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1		大塚1963	
47	鳥井南遺跡	大田市	大神地区SB06	草田3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	未報告		
47	鳥井南遺跡	大田市	大神地区SB06	草田3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	未報告		
47	鳥井南遺跡	大田市	狼段原地区SB07	草田3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	未報告		
47	鳥井南遺跡	大田市	狼段原地区SB06	草田3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	未報告		
47	鳥井南遺跡	大田市	大溝	草田3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2 未報告		
47	鳥井南遺跡	大田市	包含層	草田3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2 未報告		
48	高津遺跡	江津市	堅穴住居11	草田6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1		梅木2005	
49	波来浜遺跡	江津市	B区2号墓	草田1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3		門脇1973	
50	沖丈遺跡	美郷町	S101	草田3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1		牧田2001	
50	沖丈遺跡	美郷町	S116	草田3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2 ヤス?1、鉄片1	牧田2001		
50	沖丈遺跡	美郷町	S102	草田4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2 鉄片	牧田2001		
50	沖丈遺跡	美郷町	S114	草田4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		板状鉄斧	
50	沖丈遺跡	美郷町	S120	草田4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2 刀身片?	牧田2001		
50	沖丈遺跡	美郷町	S106	草田5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		鉄片1	
50	沖丈遺跡	美郷町	S115	草田5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2 ヤス1、三角形状鉄片1	牧田2001		
50	沖丈遺跡	美郷町	S117	草田5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3		牧田2001	
50	沖丈遺跡	美郷町	S118	草田5	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1 鉄鏃未成品1	牧田2001	
50	沖丈遺跡	美郷町	S121	草田5	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	2 5 鑿1、不明鉄器2	牧田2001		
50	沖丈遺跡	美郷町	S104	草田6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2 3 ヤス?1、鉄片2	牧田2001		
50	沖丈遺跡	美郷町	S105	草田6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		牧田2001	
50	沖丈遺跡	美郷町	S108	草田6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	4 6 ヤス1、鉄片4	牧田2001		
50	沖丈遺跡	美郷町	S109	草田6	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	3 ヤス?1	牧田2001		
50	沖丈遺跡	美郷町	S110	草田6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1 鉄片1	牧田2001		
50	沖丈遺跡	美郷町	S112	草田6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1 鉄片1	牧田2001		
50	沖丈遺跡	美郷町	S113	草田6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		牧田2001	
50	沖丈遺跡	美郷町	S119	草田6	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2 4 ヤス?1、鉄片2	牧田2001		
50	沖丈遺跡	美郷町	包含層	草田3~6	1	2	1	1	0	0	4	0	0	23	32 錛治関連遺物多數	牧田2001		
51	清源原遺跡	邑南町	A区S101	草田5?	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1		原他2001	
52	野田西遺跡	邑南町	堅穴住居跡群	草田4~5	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3	3 鋸造鉄斧、未報告		
53	湯谷渓谷遺跡	邑南町	堅穴住居跡	草田2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	未報告		
54	道休烟遺跡	浜田市	堅穴住居3	草田4	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3 刺突具2	柳浦2010		
54	道休烟遺跡	浜田市	堅穴住居4	草田5	0	0	1	0	0	0	0	0	2	3 刺突具1、針状鉄器1		柳浦2010		
54	道休烟遺跡	浜田市	堅穴住居11	草田3期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1 棒状鉄器1		柳浦2010	
54	道休烟遺跡	浜田市	堅穴住居13	草田3期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1 棒状鉄器1		柳浦2010	
54	道休烟遺跡	浜田市	堅穴住居14	草田1~2期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1 捜鏸	柳浦2010	
54	道休烟遺跡	浜田市	堅穴住居15	草田3期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2 刺突具1		柳浦2010	
54	道休烟遺跡	浜田市	堅穴住居15	草田3期	0	0	0	0	0	0	0	0	2	11 13 刺突具2		柳浦2010		
54	道休烟遺跡	浜田市	貯藏穴2	草田5期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2 針1		柳浦2010	
54	道休烟遺跡	浜田市	貯藏穴3	草田5期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1 針1		柳浦2010	
54	道休烟遺跡	浜田市	包含層	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4 7 捜鏸1、ヤス1		柳浦2010		
55	堂ノ上遺跡	益田市	I区SX01	弥生後期?	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		宮本2010	
55	堂ノ上遺跡	益田市	III区	弥生後期	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1		宮本2010	
55	堂ノ上遺跡	益田市	IV区S103	後期前葉～中葉	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	複数製品が付着	宮本2010	
56	大陸遺跡	津和野町	6区S14	後期後葉	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1		宮田2010	
56	大陸遺跡	津和野町	8区SI11	後期後葉	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1		宮田2010	
56	大陸遺跡	津和野町	8区SI12	後期後葉	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1		宮田2010	
56	大陸遺跡	津和野町	8区SI13	後期後葉	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1		宮田2010	
56	大陸遺跡	津和野町	8区SI14	後期前葉～中葉	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1		宮田2010	
56	大陸遺跡	津和野町	8区SI15	後期前葉～末	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2		宮田2010	
56	大陸遺跡	津和野町	8区SI18	後期末～古墳初頭	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1		宮田2010
57	沖場遺跡	吉賀町	S102	草田5	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3		水津2000
57	沖場遺跡	吉賀町	S108	草田5	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1		水津2000	
57	沖場遺跡	吉賀町	S111	草田5	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2		水津2000	
57	沖場遺跡	吉賀町	S111	草田4~5	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1		内田1981	



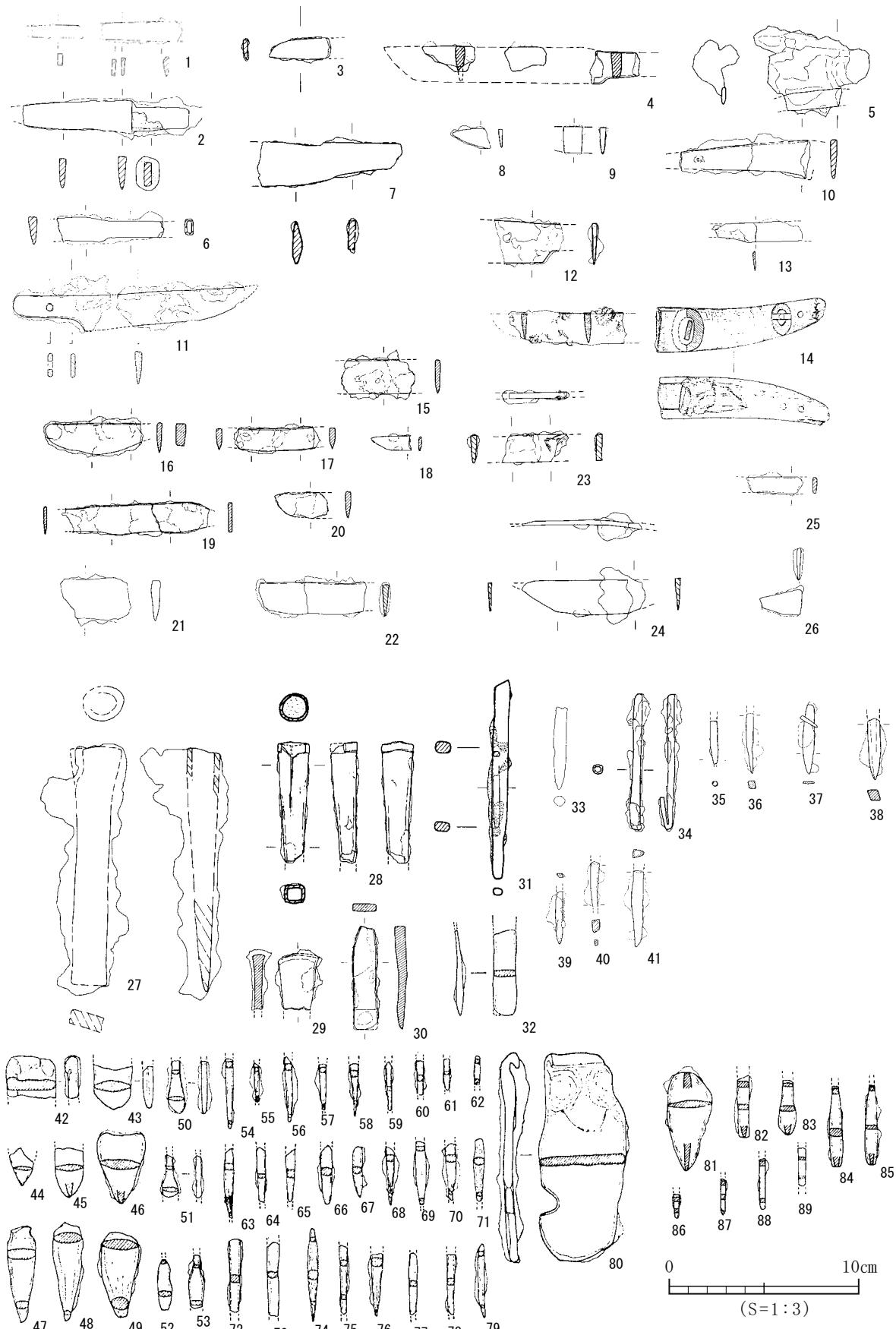
第2図 島根県弥生時代鉄器 (1) S=1/3

1: 西川津、2・9: 垣ノ内、3: 越峠、4: 中野清水、5: 上野Ⅱ、6・7: 国竹、8・10: 森VI、11: 柳、12: 沖場、
13: 沖丈、14: 原田、15・16・23: 竹ヶ崎、17: 道休畠、18: 陽徳、19: 田和山、20～22: 沖丈、24: 北原本郷



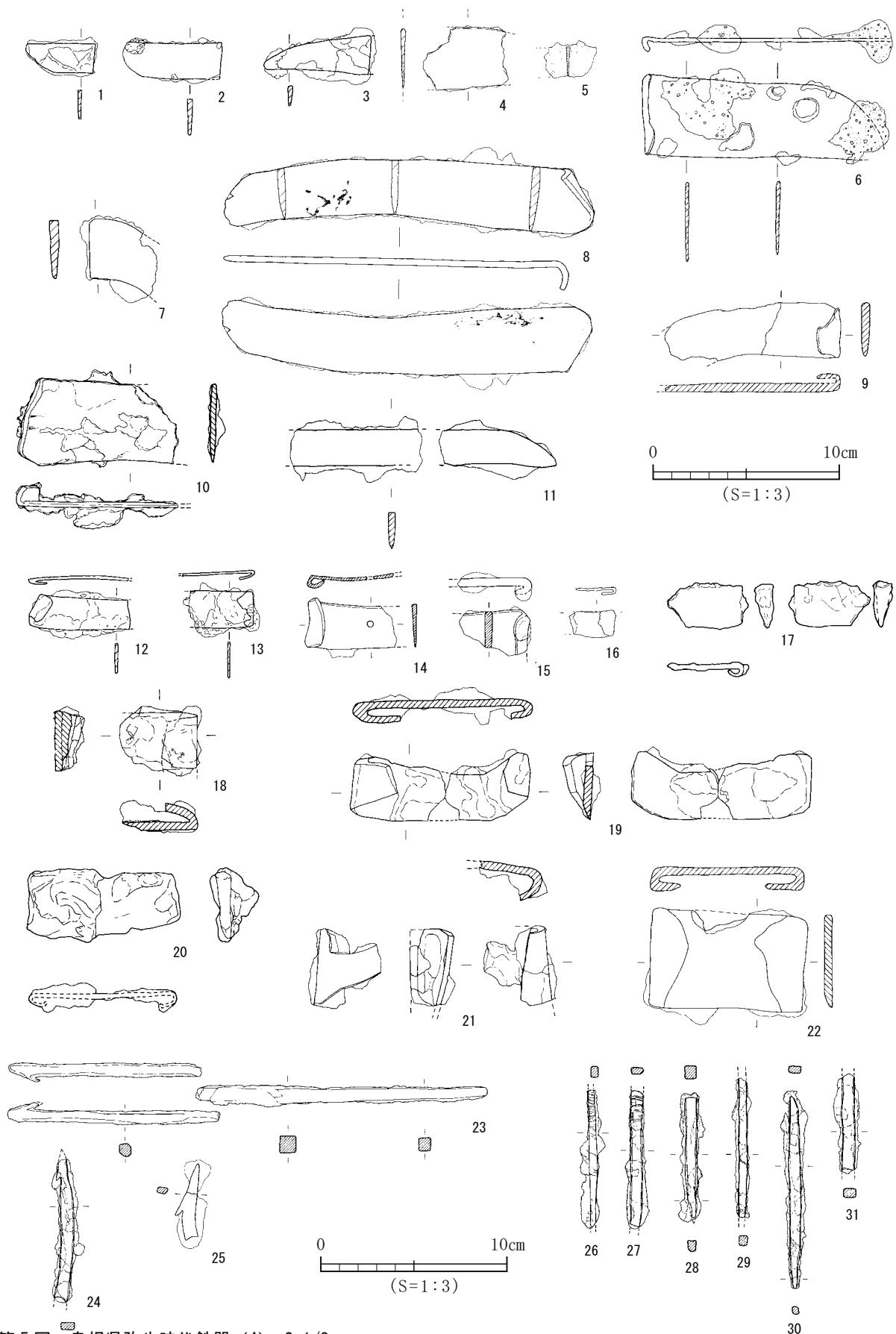
第3図 島根県弥生時代鉄器 (2) S=1/3

1:竹ヶ崎、2:板屋Ⅲ、3・22・23:中野清水、4・30:沖場、5:陽徳、6・7:堂ノ上、8:前立山、9・10・27・28:森VI、11:森V、12:山持、13:古志本郷、14:屋敷、15:角森、16:勝負奥、17・18:大陰、19・21:柳、20・29:竹ヶ崎、24~26:沖丈



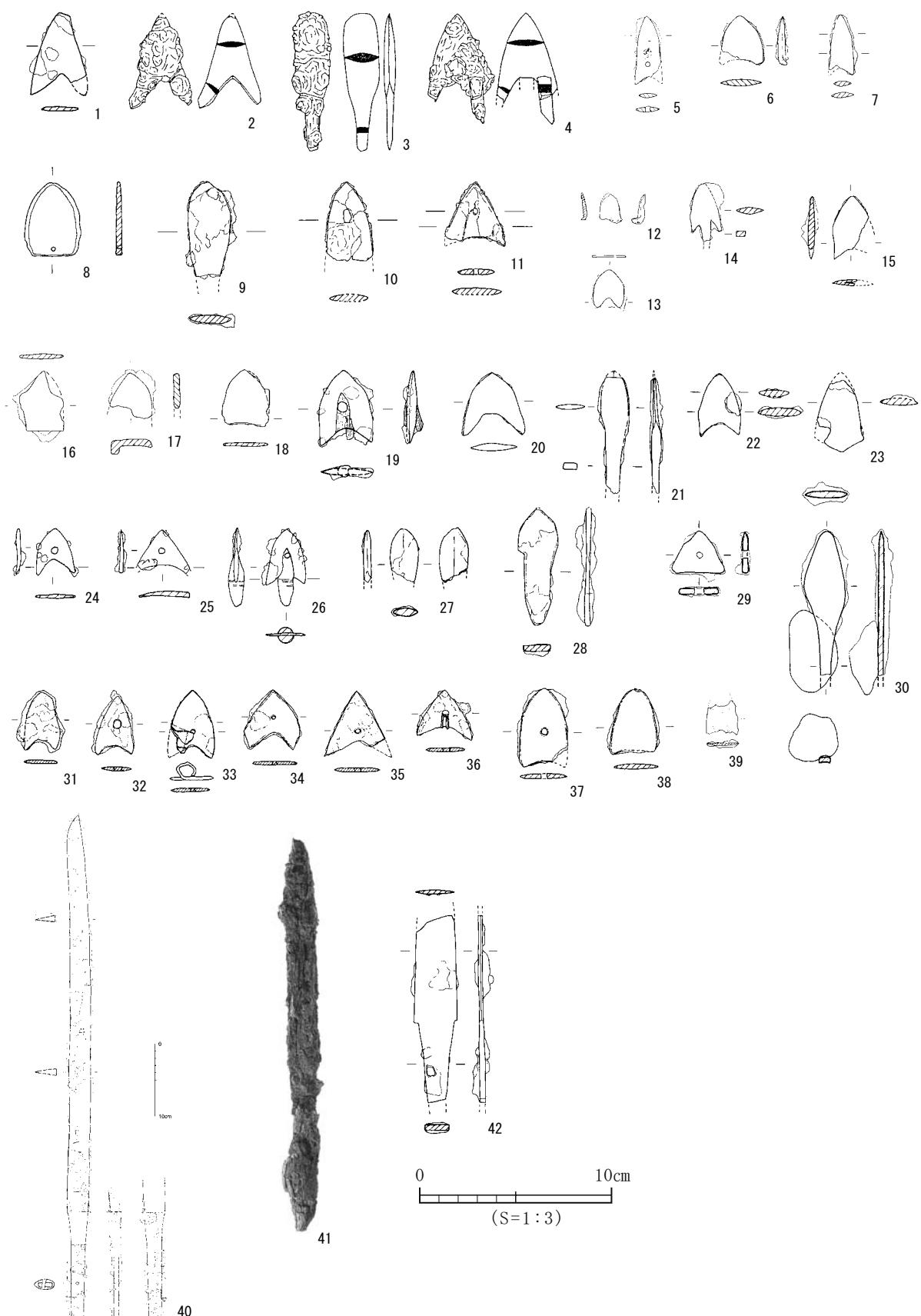
第4図 島根県弥生時代鉄器(3) S=1/3

1:山持、2:門生黒谷Ⅲ、3:屋敷、4・33:勝負、5・21:堂ノ上、6・35:竹ヶ崎、7:塩津山、8・9・12:大陰、
10・25:板屋Ⅲ、11:青木、13・36~41:道休畠、14:知井宮多聞院、15~20・29・30:沖丈、31:清源那、
32・42~89:平所、34:森VI、27:沖場、28:中野清水



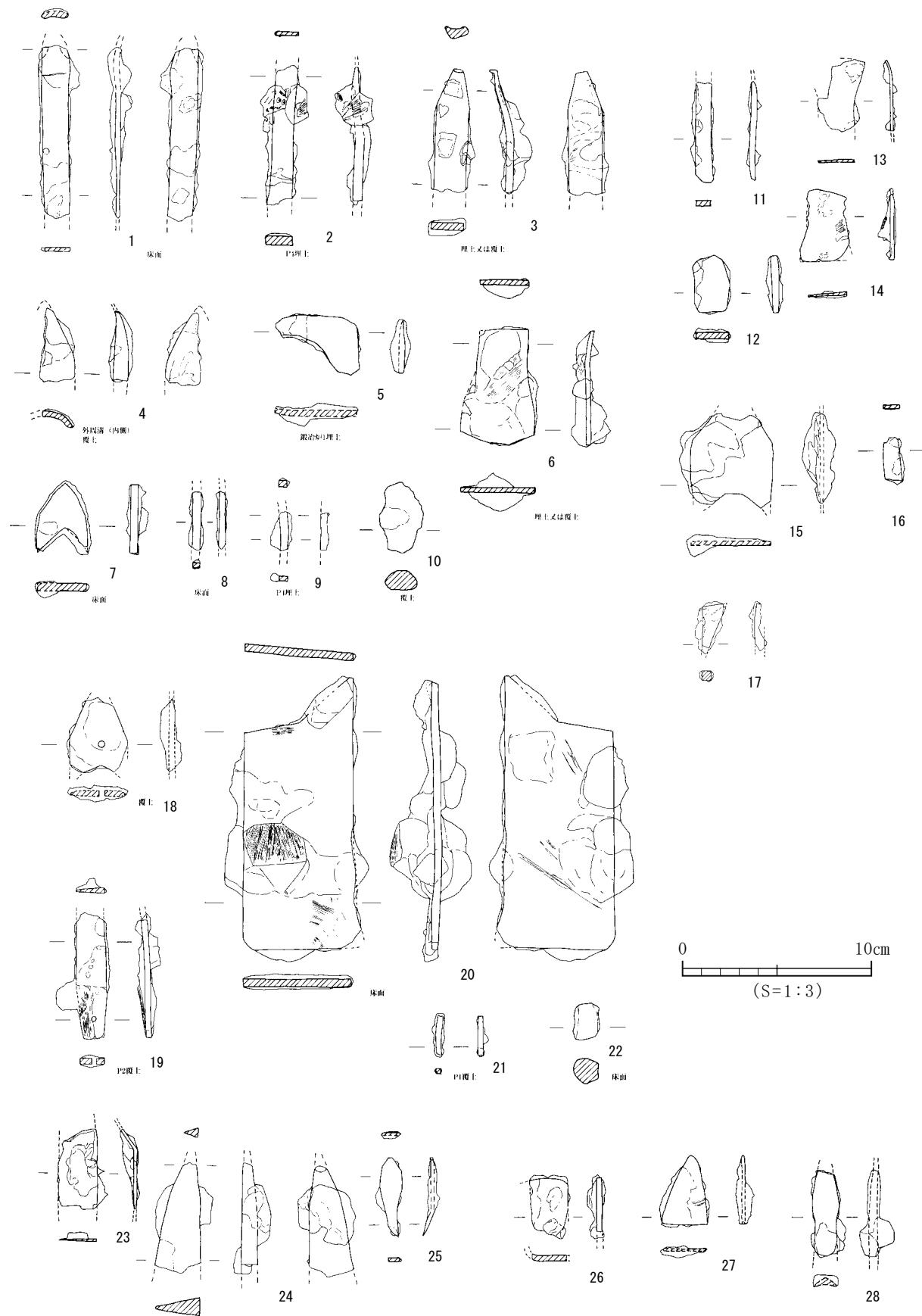
第5図 島根県弥生時代鉄器(4) S=1/3

1~3・12・13:森VI、4:山守免、5:門、6:森III、7:柳、8:前立山、9・22:竹ヶ崎、10:板屋III、11:タヤ、
14・15・25:道休畠、16:の場尻、17・20:青垣神社横、18・19・21:上野II、23:南講武草田、24・26~31:
沖丈



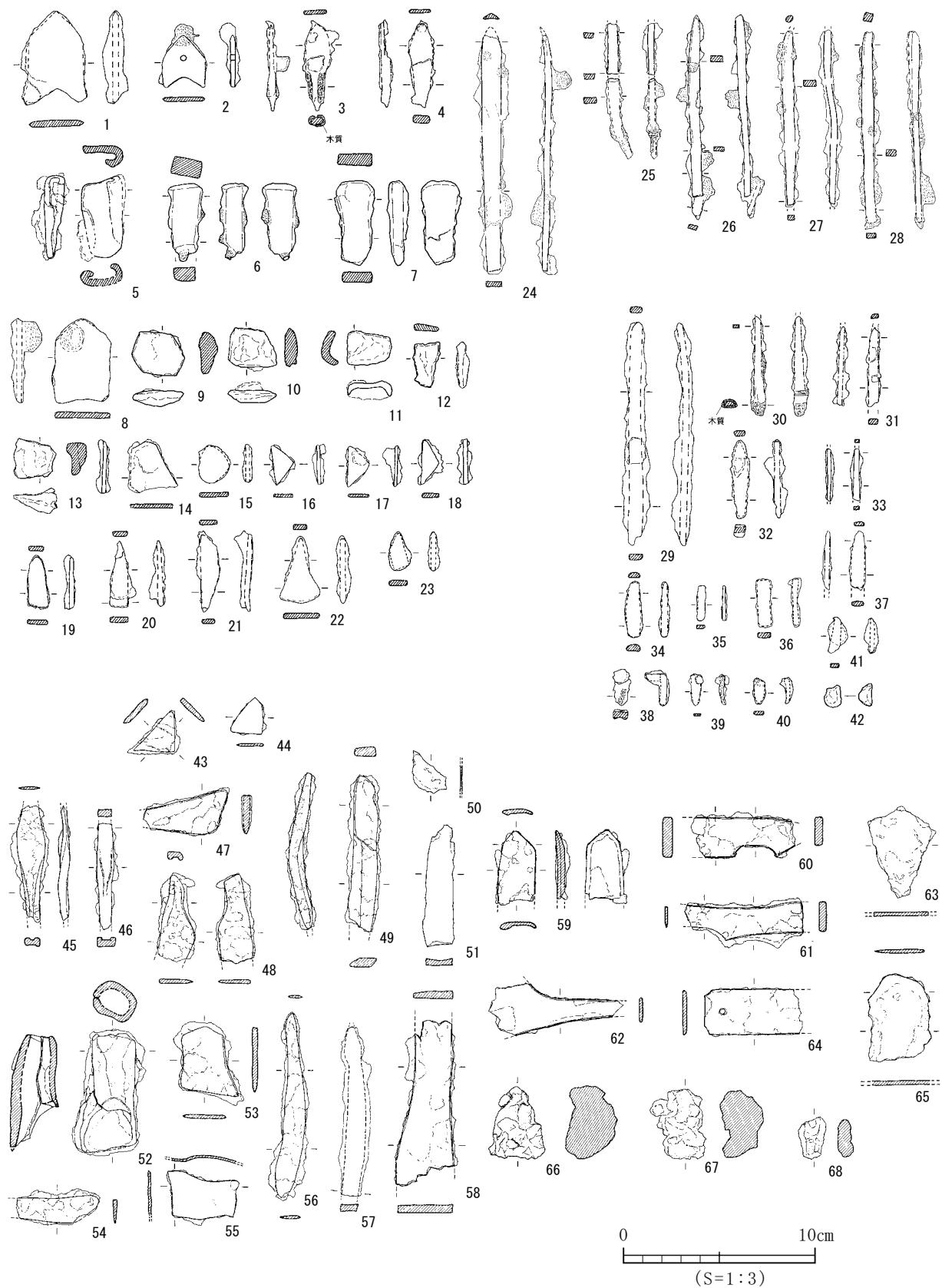
第6図 島根県弥生時代鉄器 (5) S=1/3、1/8他

1:森VI、2～4:波来浜、5～7:門生黒谷Ⅲ、8・27・28:中野清水、9:屋敷、10・11:布志名大谷Ⅲ、12・14:柳、
13:的場尻、15:岩屋口北、16～18:竹ヶ崎、19:北原本郷、20・21:沖場、22・23:塩津山、24～26:森Ⅱ、
29・30:大陰、31～36:沖丈、37・38:板屋Ⅲ、39:門、40:宮山IV号、41:西谷3号、42:上野Ⅱ



第7図 島根県弥生時代鉄器 (6) S=1/3

1~10: 上野II SI06、11~14: 上野II SI07、15·16: 上野II SI09、17: 上野II SI15、18~22: 上野II SI08、23~25: 上野II 加工段1、26~28: 上野II SI12



第8図 島根県弥生時代鉄器 (7) $S=1/3$
1~42: 平田3区竪穴建物跡、43~68: 沖丈